

## 【出前授業 学習指導案】

令和3年7月1日（木）5校時14：00～14：45  
志布志市立尾野見小学校6年生11名  
県立埋蔵文化財センター  
湯場崎・隈元・上浦

### 1 5校時指導案

#### (1) 目標

発掘調査成果を中心に、遺跡や文化財、資料などを活用して、歴史を学ぶ意味を考えるとともに、自分たちの生活の歴史的背景、地域の歴史に果たした先人の働きについて理解と関心を深めるようにする。

#### (2) 実際

過程	子どもたちの活動	時間	センター職員指導及び支援内容	準備・留意点
導入	1 埋蔵文化財センターの仕事紹介する。 2 歴史の教科書の中で、一番長い時代を当てる。 縄文時代の長さを実感する。 3 本時の目標をつかむ。 大隅半島で発掘された遺跡を誰かに話せるようになる。	10	○ 埋蔵文化財センターの仕事内容を簡潔に説明する。 ○ クイズ形式で出題し、縄文時代からの現代までの長さの表を使い、縄文時代の長さを実感させる。	○ ヘルメット・ジョレン・移植ごて ○ 年表 1年1mm遡る年表○
展開	4 教科書で習った縄文土器と鹿児島で発見された土器の違いを知る。 5 上野原遺跡に匹敵する遺跡が大隅半島にあることを知る。 6 弥生時代の遺跡である志布志市の高吉B遺跡の土器で、弥生時代の土器を観察する。 7 実際の土器や石器に触れてみる。 8 志布志市にある他の遺跡を知る。	5 5 5 5 10	○ パワーポイントと定塚遺跡の土器実物で比較する。 ○ 専門的にならないように実物で縄文土器と弥生土器の違いを説明する。 ○ 発掘調査で発見された縄文土器に触れてみる ○ やっちくふれあいセンターの京ノ峯遺跡を主に紹介する。	○ 教科書の内容に合わせて、専門的な事柄までは触れないようにする。 ○ 定塚遺跡の土器と高吉B遺跡の土器を用意する。 ○ 埋文キットから、触れる土器・石器を用意する。
終末	9 本時のまとめをする。 大隅半島の歴史的な背景や先人達の暮らしについて考える。	5	○ 1万年以上前から、自分たちの地域には人々が暮らしていて、連綿と人々の生活が営まれてきたことを知る。 ○ 地域の歴史が教科書にある日本の歴史と密接に繋がっていることを説明する。	

#### (3) 評価

- ・ 地域にある文化財や資料から、歴史を学ぶ意味を考えるようにするとともに、自分たちの生活の歴史的背景、地域の歴史に果たした先人の働きについて理解できたか。